

【社内 安全大会中止について】

社員の皆さん、毎日のお仕事ご苦労様です。
 毎年全国安全週間の一環として開催されてきました社内の安全大会を、今年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、全社員が一同に会することは厳しいと判断し中止する事になりました。
 安全について学習する貴重な時間と、各受賞者の方々の晴れ舞台が無くなった事は非常に残念です。
 社内の安全大会は中止となりましたが、6月度の安全会議の時間を使って安全大会の資料を配布し、短縮した形式での開催をしております。今回受賞された方々「おめでとうございます。」
 また社員の皆さんからも、受賞された方々に会った際は「おめでとうございます！」と一言声掛けして頂くと嬉しいです。

令和3年度 植村企業グループ・ガイアテック共通安全スローガン

「急がず 焦らず 油断せず ゆるがぬ気持ちでゼロ災害」

今年一年、このスローガンをいつも頭に入れて、社員一丸となって事故や災害の削減に努めましょう。

【熱中症：暑さ指数(WBGT)について】

暑さ指数とは？

暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は人体と外気との熱のやり取り(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい ① 湿度、② 日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境、③ 気温の3つを取り入れた指標です。

※暑さ指数(WBGT)が28(厳重警戒)を超えると熱中症患者が著しく増加します。

暑さ指数の使い方

暑さ指数(WBGT)は労働環境や運動環境の指針として有効であると認められ、ISO等で国際的に規格化されています。日本気象学会では「日常生活に関する指針」を下記のとおり公表しています。労働環境では世界的にはISO 7243、国内ではJIS Z 8504「WBGT(湿球黒球温度)指数に基づく作業者の熱ストレスの評価—暑熱環境」として規格化されています。

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31以上)	全ての生活環境でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般的には危険性は少ないが激しい運動や重労働時には危険性がある。

日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver.3」(2013)より

※暑さ指数(WBGT)はインターネットから手軽に閲覧できます。その日の暑さ指数予想が警戒の25~28(黄色)以上と表示されたら、各事業所で社員全員に熱中症の注意喚起するようお願いいたします。また危険の31(赤)以上が予想されたら、休憩時間の見直し等も検討するよう危機管理に努めて下さい。

環境安全本部より ~ For further safety さらなる安全を ~

熱中症に注意 !!

社員の皆さん、毎日の業務お疲れ様です。
 今年も熱中症の発生を警戒する時期となりました。また昨年同様に新型コロナウイルスの感染症に気を配りながらの熱中症予防対策を取らなくてはなりません。

今日現在マスクの着用を欠かす事の出来ない状況となっておりますが、**マスクを着用すると心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど身体に負担がかかります。**
 したがって高温や多湿の環境下でのマスクの着用は、熱中症のリスクが高くなる恐れがあるので屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合は、コロナウイルス感染症対策を十分に取りマスクを外す手段を取り入れましょう。

それでは熱中症について説明します。

【熱中症とは】

- 高温多湿の環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能の低下により、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気や倦怠感などの症状が現れ重症になると意識障害などに繋がる可能性があります。
- 気温と湿度が高い環境条件と、体調が良くなく暑さに体が慣れていない等の個人の体調による影響が重なることにより、熱中症の発生が高まります。
- 屋外で活動している時だけでなく、室内で何もしていなくても熱中症を発症し、救急搬送されたり死亡する事例が報告されています。

【熱中症の予防法】

熱中症の予防法には「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です！

水分・塩分補給

- こまめな水分・塩分の補給(喉の渇きの自覚症状がなくても、水分を補給する必要があります。また、1時間毎にコップ1杯や1日あたり1.2Lを目安に摂取する必要があります。)

熱中症になりにくい室内環境

- 扇風機やエアコンを使った温度調整
- 室温が上がりにくい環境の確保(こまめな換気、遮光カーテン、すだれ、打ち水など)
- こまめな室温管理 等

体調に合わせた対策

- こまめな体温測定
- 通気性の良い、吸湿・速乾の衣服の着用
- 保冷剤、氷、冷たいタオル等で体の冷却

屋外作業時の注意

- 首筋等を保冷材等で冷却
- 屋外に出た時の屋(車)内との温度差の注意
- 通気性の良い、吸湿・速乾の衣服着用
- 身体からの発汗により水分が失われるので、こまめな水分・塩分の補給

熱中症が疑われる人をみかけたら

1. 涼しい場所へ避難させる
2. 衣服を脱がせ、身体を冷やす
3. 水分・塩分を補給する

※ 自力で水を飲めない、意識がない場合は、直ちに救急隊を要請しましょう！

※各事業所におきましては、緊急時の保冷剤・経口補水液・氷の準備が出来ているか、この機会に再点検をお願いします。

